

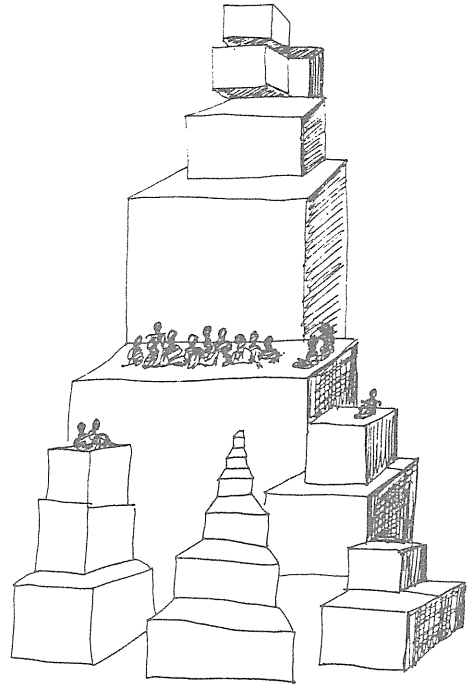
南山短期大学人間関係研究センター事業報告 (1991年度)

事業概要	193
社会人研修	194
1. 人間関係基礎研修講座（一般研修）	194
2. 人間関係専門研修講座（継続研修）	197
3. 人間関係特定研修講座	198
4. 社会人研修参加者統計	199
コンサルテーション	200
1992年度人間関係研究センター事業予定	202
南山短期大学人間関係研究センター規程	209

■ 事業概要

“ねむりこけたままほうられている人間が多すぎる”

—サン・テグジュペリ



センターの重要な活動である社会人のための公開講座は、1977年のセンターの発足時から毎年定期的に関講されている基礎研修講座を中心に、各種の専門研修講座や特定研修講座を開催している。これらの講座は南山短期大学が地域社会に対してユニークな学習の場を提供する機能と同時に、センター研究員に対して教育訓練に関する多様な臨床研究の場を提供する機能を果している。

基礎研修講座（一般研修）は昨年春秋3回開催され、既に32回を重ねている。基本的なプログラムは週1回約3時間（午後6時30分～9時）の研修を10週間続けて1コースとし、体験学習による自己理解や他者理解、コミュニケーション・プロセス、グループ・プロセスの基礎的な学習を目指している。受講者にとっては、利害関係にとらわれることなく、さまざまな人々と接触を持つことも魅力の一つであり、そこから新しい友人関係や仲間意識が生まれ、自主研修グループに育っていく場合もある。

専門研修（継続研修）としては、“自己理解を深める”研修と“グループ・プロセスの理解を深める”研修とが基礎研修に続く研修として開講されている。中部地区では、はじめての、Tグループを中心とした人間関係トレーニングやTAセミナーは回数を重ね、からだことばのセミナー、ボディーワークセミナーも多くの受講者を迎えている。また、新しく、ヤング心理学、トレーナー・トレーニングも開講された。

特定の専門職にある人々のための特定研修講座としては、ワークショップ「教え育てる人生」、組織の中での教育にかかわったり、関心をもっている人のための「ファシリテーター・トレーニング」も、開かれている。

一方、コンサルテーション活動は地域社会の個人や組織体に対してセンターが提供できる専門的機能であり、1984年度「名古屋いのちの電話準備委員会」約100名の電話相談員の「人間関係基礎訓練」以来、「名古屋いのちの電話」は、1985年7月から相談業務に入り、センターは毎年「人間関係基礎訓練」「継続研修」の訓練計画と実施の援助をつづけている。種々地域団体の研修プログラムをはじめ1989年度国立婦人会館、1990年度名古屋市生涯教育センターからのプログラム開発に対して講師としてセンター研究員が派遣されている。

■社会人研修／人間関係基礎研修講座（一般研修）

●第30回人間関係講座

開講期間：1991年5月13日～7月22日毎週月曜日午前9時～12時

参加者：28名

担当者：伊藤雅子・寺西佐稚代

「人間関係講座」は、人間関係研究センターの講座の中で最も基礎的な講座です。講座では、対話やコミュニケーションをするときの、自分自身の話し方や聴き方、チームワークやリーダーシップなど、自分自身の在り方や小集団の中での有効な人間関係の在り方などを、体験学習を通じて学びます。講座は、毎週1回行なわれ、全部で10週間のプログラムとなっています。時間帯は、夜間のもものと午前のもものとがあり、夜間は仕事を持っている方の参加が多く、午前は主婦の方の参加が多いようです。社会人になって、もう一度学び直したい、ちょっと立ち止まって自分のことを考えたいと思う人関卒業生、学生の時に人関の授業に興味があったと話す英語科卒業生、娘が人関に通っていて、その娘に勧められたというお母さんなどの参加もあります。

また、この講座は年3回行なわれ（春期2回、秋期1回）、それぞれ担当スタッフの顔ぶれが異なり、担当スタッフの個性や専門も生かされた内容の講座になっています。今回は、伊藤雅子先生と私が担当した講座の紹介をしたいと思います。

講座は、「人間関係の体験学習を通して、人とのかかわりの中での自分の課題を発見し、自分らしい生き方をさぐる——自分のコミュニケーションのあり方に気づき、よりよいコミュニケーションのスキルをみがくグループの中での自分と他者の動きに気づき、自分らしいグループとのかかわり方を学ぶ」というねらいのもとで進められました。

主な実習の内容は次のとおりです。

第1回：私の4つの窓、講座への期待の共有化

第2回：バスは待ってくれない

第3回：流れ星、一方通行両面通行のコミュニケーション

第4回：聴く、たづね・こたえ・観察する

第5回：ノンバーバル、目かくし探険

第6回：思いやりのスキット、P O - P O

第7回：コンセンサスによる集団決定（若い女性と水夫）

第8回：的あて、フィードバック・サークル

第9回：セルフバッグ

第10回：セルフバッグのわかちあいと全体のふりかえり

その他に小講義がありました。

講座の内容としては、人間関係科の授業の「人間関係プロセス論」に似ています。

どの実習も楽しかったのですが、特に「若い女性と水夫」が盛り上がりました。参加者は、20代

第30回 人間関係講座 全日程表

人間関係研究センター
基30 1991.5.13～7.22

9:30	No.1 5月13日 開会 お互いに知り 合うために 実習1 「私の 4つの窓」	No.2 5月20日 導 入 実 習3 「バスは待っ てくれない」	No.3 5月27日 導 入 実 習4 「流れ星」	No.4 6月3日 導 入 小講義 「コミュニケーション シミュレーション プロセス」 実 習6 「聴く」 実 習7 「たずね、 こたえ、 観察する」	No.5 6月10日 小講義 「コミュニケーション シミュレーションの5つ の要素」 実 習8 「ノンバー バル」 実 習9 「目かくし 探検」	No.6 6月24日 実 習10 「思いやりの スキット」 実 習11 「PO-PO (1)」	No.7 7月1日 導 入 実 習12 コンセンサス による 集団決定 「若い女性と 水夫」 1.個人決定 2.集団決定	No.8 7月8日 導 入 実 習13 「的あて」	No.9 7月15日 小講義 「Johari の 窓」 実 習15 「Self Bag」	No.10 7月22日 Self Bagの わかちあい (全体で) 講座全体の ふりかえり とまとめ
			休 憩 実 習5 「一方通行両 面通行のコミュ ニケーション」	休 憩 実 習9 「目かくし 探検」	休 憩 「PO-PO (2)」	休 憩 3.結果の発表 4.ふりかえり	休 憩 実 習14 「フィード バック・ サークル」	休 憩	休 憩	終了式 Party
		記 入 休 憩 まとめ		休 憩 実 習9 「目かくし 探検」	休 憩 「PO-PO (2)」					
		まとめ		ペアで わかちあい	まとめ					

～50代という年齢幅がありますので、男性観・女性観や価値観の違いがとても大きく、話し合いが白熱しました。全体の発表の時、お孫さんもいらっしゃるという60代のご婦人は、老人の感じ方や立場について皆の前で話され、全員が耳を傾けました。また、セルフバッグを作って、仲がこじれていた娘となぜか素直に話せた、と語って下さった方もいました。

次に、参加者はどのような期待を持って参加しているのかを紹介しましょう。

- * 知らなかった自分を見つきたい。
- * 自分の実際の足や手で、いろいろなことを感じたい。
- * 新しい自分を発見する。
- * 自分を好きになる。
- * 心の豊かさ、柔軟性。
- * 見知らぬ人の中で、自分らしさを出せたら。
- * 心豊かな人生を送りたい。

これらを読んでも、また講座の中での発言や質問からも、自己理解や自己成長のために、皆さんひとりひとり、今の自分に必要な“何か”を求めて参加なさっている、そんな熱い思いがひしひしと伝わってきます。このような思いは、性別・年齢・職業など関係ないのだと思いました。

最後に、参加者の感想を紹介しましょう。

- * 自分も人も好きになれそうです。
- * 自分がこれから先へ進むエネルギーになった。
- * 自分を見つめることができた。
- * 「私は私」というほっとできる思いを持てた。目標はあるが、焦らずのんびり10年後の自分をイメージできるような気分になれた。
- * 人それぞれを大切に、相手を大切に、自分を大切にして、自分を見つめていかなければ、と思いました。
- * 人とのかかわりの中で、成長していくことが出来ることが分かった。

(寺西佐稚代)

●第3 1回人間関係講座

開講期間：1991年4月23日～7月2日毎週火曜日午後6時30分～9時

参加者：31名

担当者：星野欣生・木村晴子

●第3 2回人間関係講座

開講期間：1991年9月27日～12月20日毎週金曜日午後6時30分～9時

参加者：34名

担当者：山口真人・中野 清

■社会人研修／人間関係専門研修講座（継続研修）

●セルフサイエンス・セミナー

開講期間：1991年9月24日～12月17日毎週火曜日午後6時30分～9時

参加者：16名

担当者：津村 俊充

アメリカ留学から、帰ってきてもう7年が経とうとしています。マサチューセッツ大学のウェインシュタイン教授のもとで勉強してきた『セルフ・サイエンス』を人間関係研究センターのプログラムとして、社会人に提供し始めて5年目です。その間、たくさん人間関係科の卒業生をはじめとして様々な人たちがこの講座にやってきてくれました。

この講座では、自分自身の他者とのかかわり方の内的・外的反応（感情、思考、行動）を客観的に観察するトレーニングをしながら、「また、やってしまった」と思うような自分にとって不快なパターンを見つけ出すことが1つの課題になります。

次に、その不快なパターンが何故生まれたのか、またそのパターンがどのような目的で働いているのかなどを調べていきます。このコースではパターンの働きには「自分は能力がない」といったような自己否定的な信念（クラッシャー）を守る機能を果たしていると考えています。いわば人に言われたくない、また人に見つけられたくないような自分の不十分さに関するメッセージ（クラッシャー）から守るためにパターン化した行動をしてしまうわけです。そのクラッシャーを探し出すことが、パターンの発見と同時に、重要な課題になります。

次に、そのクラッシャーとは対照的な自分自身を肯定するような信念を作りだし、他者との新しいかかわり方を身につけることができるようにプログラムは展開します。

こうした過程で、まさに科学者が客観的に出来事を観察し、できる限り事象を記述し分析するとく、自分自身の経験を取り扱い、新しい対人行動のレパートリーを広げていくことより、セルフ・サイエンスと命名されています。

プログラムの全体の流れは、体験学習のステップをさらに細かなステップとした『トランペット・セオリー』に基づいて進められます。

そして、本コースは2つのフェイズから構成されています。前半のフェイズでは、学習者の対人関係の中での内的・外的な反応のあり方を調べるために交流分析の自我状態の分析、ゲシュタルトセラピーなどを使いながら、自分自身の感情・思考・行動などの反応の観察・記述を何度も試み、行動パターンを見つけ出します。後半のフェイズでは、3人組を作り、自分の不協和なパターンを1つ選び出し、再評価カウンセリングや行動療法などのモデルや前半のフェイズで示された分析方法を用いて自分のパターンの変革に向けてワークすることになります。3人のメンバーは、お互いに支持的に働くと同時に相手のパターンを明確にすることを助ける役割をとりまします。

この研修では、必ずしも楽しいことばかりでなく、自分が今まで直面せずにすませてきたクラッシャーに出会う苦しみから、時としては非常に苦しいセッションを経験することがあります。また、

自分が恐れていたことから、解き放たれる喜びを経験される方もいます。こうした苦しみと喜びの中で、ほとんどの参加者は最後まで頑張られ、自分のパターンを克服されると同時に、日常経験での新しい自分の行動パターンが生じて、それを自分の成長へのステップにするだけの学習方法を学ばれていかれているのではないかと自負しています。

92年度は、セルフ・サイエンスはお休みですが、これを読まれて関心を持たれた方は是非一度センターに顔を出してください。楽しみにしております。最後にこのコースに参加された卒業生の声を載せておきます。

○自分を客観的に見つめるのは、難しいことでした。自己弁護や言い訳が、邪魔するし、また、それが、うとうしいし。でもできるだけ、感情に左右されないように、見つめていくことは決して、いたずらに自分を責めたり、追い込んだりすることじゃないってことに気づきました。次のステップを踏むための、冷静な、自分のHeartのお手入れかも知れないと思いました。

○人間関係科時代に勉強したことで、自分についてとか、家族や友達との関係とかいろいろ考えることは身についたと思いますが、社会人になって5年間過ごしてきた中では、考えるには考えても仕事のことで精一杯でそんなことどうでもいいと思ったり、忙しさにまぎれて気づいても気づかないふりをして、避けてきたことがたくさんあると思います。今回改めて自分のパターンに取り組んでみて、なかなか重くてたいへんなことなのだけれど、充実感があるというか、やっぱり人間関係科に帰ってきて良かったなとしみじみ思っているところです。

○社会に出てからも、本当に人間関係科がつかしくて、またNO21教室で講義が受けられるなんて、毎週火曜日は、年齢を忘れて、学生気分でした。また、気に入ったもので時間のあうものがあれば出てみたいと思います。

○今までの人生で私がいわれもなく毛嫌いしてきたもの、逃げながら自分に言い訳してきたものの中に私を知っていく鍵があるような気がします。たった一度の人生ですから、私の価値観をこれから築いてそれに従って生きていきたいと思います。

(津村俊充)

●その他

ポディーワーク・セミナー、からだとことばのセミナー、Tグループ、TA入門、TAによる自己啓発が前年度にひきつづき開催された。

■社会人講座／人間関係特定研修講座

- ・第8回 教師のためのセミナー
- ・第1回 ファシリテーター・トレーニング（「組織内教育セミナー」を変更）が開催された。

■ 社会人研修／参加者統計（1991年度）

講座名	場所	担当者	期	時間	曜日	参加者数	性別		居住地		職業						年齢									
							男	女	市内	市外	公務員	団体職員	会社員	自営業	医療関係	教育関係	教会関係	主婦	学生	その他	無答	20才以下	20～29才	30～39才	40～49才	50才以上
人間関係基礎研修講座						917	240	677	581	336	48	45	247	28	90	140	42	139	74	61	3	454	232	156	68	7
前回まで																										
人間関係講座 No.30	南山短大	伊藤 寺西	H3.5/13～7/22	9:30～12:00	月	28	0	28	15	13	0	0	3	0	0	1	0	20	2	1	1	5	4	16	3	0
人間関係講座 No.31	〃	星野 木村	H3.4/23～7/2	18:30～21:00	火	31	6	25	16	15	2	3	11	1	4	2	0	4	0	2	2	15	7	7	2	0
人間関係講座 No.32	〃	山口 中野	H3.9/27～12/20	18:30～21:00	金	34	4	30	25	9	7	2	7	0	9	2	0	4	1	2	0	18	7	7	2	0
計						1,010	250	760	637	373	57	50	268	29	103	145	42	167	77	66	6	492	250	186	75	7
前回まで						467	100	367	241	226	23	31	155	7	58	76	6	41	31	35	4	217	125	90	28	7
ボディーワーク・セミナー	南山短大	グラバア	H3.5/11～7/6	13:00～16:00	土	28	2	26	16	12	2	2	7	0	6	5	0	2	2	1	1	13	2	8	3	2
からだごととばのセミナー	〃	竹内	H3.7/28～7/30		日/月/火	29	4	25	8	21	3	4	3	0	5	10	1	1	0	1	1	7	12	6	2	2
Tグループ	御岳名古屋市中区中津 市氏休職村市瀬・寺西		H3.9/12～9/17		木～火	19	7	12	9	10	0	0	8	1	3	2	0	1	2	2	0	5	9	4	1	0
T A入門	南山短大	中堀	H3.9/26～12/19	18:30～21:00	木	24	8	16	11	13	2	2	6	0	3	0	3	0	4	1	3	0	6	7	2	2
セルフサイエンス・セミナー	〃	津村	H3.9/24～12/17	18:30～21:00	火	16	4	12	8	8	1	1	5	0	4	2	0	1	0	2	0	5	5	5	1	0
T Aによる自己啓発	清里 清泉寮	中堀	H4.3/20～3/22		金/土/日	16	5	11	9	7	3	1	6	0	1	3	0	0	1	0	1	5	5	3	2	1
計						599	130	469	302	297	34	41	190	8	80	101	7	50	37	44	7	258	165	123	39	14
前回まで						189	67	122	96	93	2	8	36	8	7	89	27	3	1	6	2	36	74	48	28	3
教師のためのセミナー	南山短大	河津	H3.7/25～7/27		木/金/土	10	2	8	2	8	0	0	1	0	1	6	0	0	0	2	0	2	4	3	1	0
ファンリテーター・トレーニング	〃	星野	H3.9/21～H4.2/8	14:00～17:00	土	15	6	9	5	10	1	0	6	0	1	3	0	0	2	2	0	0	4	8	1	2
計						214	75	139	103	111	3	8	43	8	9	98	27	3	1	10	4	38	82	59	30	5
総計						1,823	455	1,368	1,042	781	94	99	501	45	192	344	76	220	115	120	17	788	497	368	144	26

■ コンサルテーション

○「名古屋いのちの電話」電話相談員養成講座の計画と実施

「いのちの電話」は、訓練を受けたボランティアが電話を通して、さまざまな悩みや心の危機に直面しながら身近に相談できる相手がなく孤独の中にいる人たちの、良き相談相手になっていこうとする市民の奉仕活動である。1953年ロンドンで始められ、現在では世界40ヶ国、数百都市に設立されている。日本では、1971年に「東京いのちの電話」が開設され、今日まで東京、横浜、京都、大阪など30余りの都市に設立され、「日本いのちの電話連盟」を組織して各地でそれぞれ独自の活動をしている。

「名古屋いのちの電話」は全国で23番目の「いのちの電話」として1985年7月に開局し、現在150名余りのボランティアが年中無休の電話による心理的危機に対する援助活動に参加している。人間関係研究センターは、名古屋いのちの電話訓練委員会からの要請で、相談員養成講座の第一課程である人間関係基礎訓練のプログラムの立案と実施のコンサルテーションを行っている。1986年7月には「名古屋いのちの電話」より感謝状の贈呈を受けた。

基礎訓練は「自己理解を深める」をねらいとして、一泊研修を含め、1回3時間のセッションを毎週1回、計8回の体験学習プログラムを立案し、1985年度は第2期生（50名）の基礎訓練を1986年1月から3月に実施した。1986年度は第3期生（60名）の基礎訓練を1986年10月から12月に、1988年度は第4期生（37名）の基礎訓練を1988年4月から7月に継続研修も実施中である。1989年度は第5期生（32名）の基礎訓練を1989年9月から12月に、1991年度は第6期生（34名）の基礎訓練を1991年5月から7月に1992年度は第7期生（34名）の基礎訓練が5月12日から7月に実施される予定。

ねらい：「自己理解を深める」

- 自分の価値観（考え方や行動の特徴）に気づく。
- 自分のありのままを表現する。
- 相手のありのままを聴く。
- 対人関係（自分との、他人との）のなかにある自分のあり方に気づく。
- 今、ここでの関係の中におこっていることに気づく。

この訓練は、電話相談養成の目的で行われたものであるが、決して相談員となるための技能訓練ではない。社会の中で、人とのかかわりの中で、共に生きようとするときに、誰でも求められることからの訓練としてプログラムされたものである。生涯学習のための一つのプログラムでもある。

1986～1991年度コンサルテーション及び依頼事業

(順不同)

講 座 名	主 催
<p>電話相談コンサルテーション スクールODコンサルテーション リーダーとして備えるべきものは何か 情動を大切にされた教育 グループリーダー研修会 出会い・ふれあい・結婚 ヘルスカウンセリング指導者養成講座 人間関係訓練 教師と生徒とのコミュニケーション の中でどこまで訊けるか 人と人とのコミュニケーションについて カウンセリング講座初級講習会 青少年担当者・指導者養成事業 箱庭療法 箱庭療法研究会 人間関係トレーニング(Tグループ) 「おとしよりの人間関係・チームワーク」体験学習 教師と生徒の人間関係 リーダーシップについて…理論と実践… 習熟度別学習指導について 望ましいグループリーダー養成講座 PFスタディーの理論と実践 人間関係トレーニング …自己理解・他者理解のために… 非行少年の箱庭 生き生きグループ活動 昭和63年春期アドバンスコース 患者理解を深めるために 箱庭療法ケースセミナー 東海市教育委員会主催ヤングセミナー 人間関係をよくするために 女性が学ぶこと、ライフサイエンス カウンセリング講座 学校栄養職員研修会「リーダーシップの機能」 箱庭療法夏期研修会 老人福祉関係職員等研修事業 勤労青少年リーダー養成研修会 企業経営＝職場でのコミュニケーション 私学協会教育相談研究会 サークル活動をデザイン 研修・研究の調査 女性講座 気づき重視トレーニングの科学的根拠をさぐる 女性セミナー／青年セミナー グループの中の人間関係 女性管理者養成講座 生徒指導のあり方 なごやかスタッフ養成研修 カウンセリングセミナー ヤングセミナー (グループワークトレーニングの基礎知識) 社内研修会「なぜ今“気づき”なのか」 名古屋市民大学「グループリーダーセミナー」 自主グループの研修会 ライフサイエンスのめざすもの 自分を知るプログラムの体験学習 ヒューマン・リレーションズ・ラブ 女性のための自己開発講座</p>	<p>名古屋いのちの電話 聖カピタニオ女子高等学校 東海理化労働組合 遠州カウンセリング研修会 名古屋市千種社会教育センター 名古屋市瑞穂青年の家 愛知県教育委員会 名古屋市民生局 愛知県私学協会研究部 東海市教育委員会 愛知県看護協会 愛知県総務部 財団法人関西カウンセリングセンター 兵庫教育大学生徒指導講座 遠州カウンセリング研究会 名古屋市民生局 中部地区カトリック中・高等学校教職員教育研修会 愛知県労働部 香川県立小豆島高等学校 名古屋市千種社会教育センター 宝塚市立教育研究所 財団法人関西カウンセリングセンター 大阪家庭裁判所 名古屋市昭和社會教育センター 関西カウンセリングセンター 浜松市立看護専門学校 メンタルヘルス研究所、東京 東海市立青少年センター 戸塚協会名古屋支部 名古屋市教育委員会：名古屋市婦人会館 愛知県看護協会 名古屋市教育委員会 兵庫教育大学生徒指導講座 名古屋市民生局 愛知県労働部労働福祉課 名古屋商工会議所 愛知県私学協会 名古屋市瑞穂青年の家 奈良県教育センター 春日井市いぶき会 名古屋青年会議所 名古屋市中社会教育センター 名古屋市婦人会館 日本経営管理協会中部支社 平和町立平和中学校 社会福祉法人名古屋市社会福祉協議会 社会福祉法人あさみどりの会 東海市教育委員会教育長 MMC／マーケティング・マネジメント・センター 名古屋市生涯教育センター 婦人学習相談員グループ 名古屋青年税理士連盟 国立婦人教育会館 聖マーガレット生涯教育研究所 滋賀県立婦人センター</p>

■ 社会人研修／人間関係研究センター－1992年度事業予定

南山短期大学人間関係研究センター
The Center for the Study of Human Relations
of Nanzan Junior College

個性ある生き方と人間性豊かな社会をつくり出すために

私たちは一人ひとり豊かな人間性と独自の個性を持ったかけがえのない存在です。ところが現代社会の中で私たちは、役割の中に埋没し、互いに心を閉ざし、かかわり合うことをおそれ、人間をあたかも物の如くに扱い、自分も取るに足らぬ者としか感じられなくなっていないでしょうか。

人間関係の教育は、対話を通して自分の価値観や人生観をみがき、他者への思いやりと感受性を豊かに養い、ひとりひとりが生かされるグループや共同体を形成し、人間疎外の社会を愛と信頼関係のあふれる人間尊重の社会へと変革することと、それらの担い手を育てることに取り組みます。

いまこそ本当に人間関係の教育が必要とされているのです。

基礎研修

対話やコミュニケーションをするときの自分自身の、話し聴く能力、チームワークやリーダーシップなど、小集団の中での有効な人間関係のあり方などを、体験を通して学びます。特別に用意された実習を行いながら、その体験をお互いに報告し話し合い、まとめていくラボラトリーメソッドを使いますので、単なる講義とは違って、自分自身のあり方そのものを学ぶことができます。企業人、教育関係者、医療関係者、ボランティア活動家、主婦、学生など、人間や人間関係に関心を持っている方々にとって、最も気軽に参加できる体験学習の機会です。研修は毎週1回、10週間で1コースになるように計画されています。

第33回人間関係講座（春期・月曜日・午前9：30～12：00）

1992年5月11日／18日／25日

6月1日／8日／22日／29日

7月6日／13日／20日

担当者 伊藤雅子・佐竹一予

南山学園コミュニティ・カレッジとの共催事業として行います。

第34回人間関係講座（春期・金曜日・夜間6：30～9：00）

1992年5月8日／15日／22日／29日

6月5日／12日／26日

7月3日／10日／17日

担当者 星野欣生・中野 清

第35回人間関係講座（秋期・金曜日・夜間6：30～9：00）

1992年9月25日

10月2日／9日／16日／30日

11月6日／20日／27日

12月4日／11日

担当者 山口真人・まどか庸代

南山学園コミュニティ・カレッジとの共催事業として行います。

定員 各回とも30名

会場 南山短期大学

研修費 各回とも20,600円（消費税を含む）

専門研修

Tグループ〔人間関係トレーニング〕

Tグループでは、“いま、ここ”の“場”の中に生じているメンバー間のコミュニケーションや相互影響関係を学習の素材として、お互いの気づきをフィードバックしあいながら、自分を学び、人間関係のプロセスと本質を体験的に学んでいきます。それは一つ一つの影響関係がより深い人間関係を生み出し、次第にグループという有機体を形成していく過程の体験でもあります。

Tグループは、最も深く最も集中的に人間関係を学ぶ場として、1947年米国で始まって、その後世界各国で実施されており、人間にかかわるすべての専門職業人や組織の管理者、人間や人間関係に関心を持っている方、自分の生き方を探っている方、などにとって必須の体験となります。

担当者 樋田大二郎・伊藤雅子・中堀仁四郎・津村俊充

日程 1992年9月11日（金）～16日（水）5泊6日

フォローアップ1991年12月6日（日）

定員 20名

会場 （財）キープ協会・清泉寮

〒407-03 山梨県北巨摩郡高根町清里 3545 TEL (0511) 48-2111

参加費研修費 61,800円（消費税を含む）

滞在費は実費（40,000円程度）を別途徴収させていただきます。

トレーナー・トレーニング

このセミナーでは、関わりの中で、学び生きることを促進するための技能と態度を、まさに体験を通して学びます。

Tグループを想定した状況の中で、参加者が交代で実際にトレーナー役を勤めたり観察者としてグループ状況をフィードバックしたりしながら、メンバーやグループの理解と介入に関しての理解を深めます。

プログラムの中では適時、ベテラントレーナーを交えてのディスカッションやケーススタディなども交えながら、許容的な雰囲気の中で相互にクリティークを行います。

期待される成果は

- ・カウンセリングなどの基本になる「受容」、「共感的理解」、「自己一致」や「人間尊重の姿勢」などを、自分自身の生きた姿で点検できます。
 - ・体験過程を促進する効果的な言葉かけや介入を学ぶことができます。
 - ・組織や学級運営に役立つグループプロセスを観察・診断するスキルを修得できます。
 - ・グループメンバーを尊重しながらグループを促進するように介入するスキルを修得できます。
 - ・自分自身の介入の問題点や可能性を探ることができます。
- *参加者の関心に応じて、スケジュールの中にラボラトリーのデザインの問題や具体的なプログラミングの問題なども取り上げることができます。

担当者 中堀仁四郎・津村俊充・山口真人

日 程 1993年2月9日（火）～13日（土）4泊5日

定 員 18名

参加資格 Tグループ、エンカウンターグループなどの構造化されていないグループ体験のある方、または、それらに準じた体験学習を経験しておられる方で、トレーニングスキルの修得を目的にしている方。

（不明な場合はセンターまでお問い合わせ下さい）

会 場 日本カトリック研修センター（予定）

〒466 名古屋市昭和区広路町隼人 30 TEL (052) 831—5037

参加費 82,400円（消費税を含む）

滞在費は実費（35,000円程度）を別途徴収させていただきます。

TA入門〔トランザクショナル・アナリシス〕

TA (Transactional Analysis) はエリック・バーン博士 (1910—1970) により開発さ

れ、のちに彼の仲間達とともに発展させられた心理療法の体系です。

T Aは、わたしたち誰もが基本的には“ I'm OK You're OK ”の存在であるという価値観に基づいています。“今、ここ”に気づき、自らが自分の在り方を選びながら、自分のOKであることをたしかめ、また相手とも肯定的な関係を作り出していきます。

T Aは心理療法として発達しましたが、私たちの自分自身との関係や他者との関係の改善、楽しい職場や家庭づくりなどに大いに生かす事が出来るものです。

この講座ではT Aの基本的な考え方を理解し、体験学習の方法を用いて自己理解を深め、成長への手がかりをつかむことをねらいにします。

担当者 中堀仁四郎

日 程 毎週木曜日10回午後6：30～9：00

1992年10月1日／8日／15日／22日／29日

11月5日／19日／26日

12月3日／10日

定 員 24名

会 場 南山短期大学

研修費 20,600円（消費税を含む）

T Aによる自己啓発

T Aを中心に、ゲシュタルトセラピーなどの考え方もとりいれながら、自己に焦点をあてます。ゆったりとした環境の中で、グループで助け合いながら、自分をふりかえったり、自分の可能性を探ったりして、エネルギーを充電する時としたいと思っています。

参加する人には、理論を学ぶよりも、自分自身に光りをあててみる、自分の可能性を確かめてみるといったことを期待しています。原則として、T Aの入門コース（当センターでなくてもよい）を経験されていることを望みます。

担当者 中堀仁四郎

日 程 1993年3月20日（土）～22日（月）2泊3日

定 員 16名

会 場 （財）キープ協会・清泉寮

〒407-03 山梨県北巨摩郡高根町清里3545 TEL (0551) 48-2111

研修費 27,810円（消費税を含む）

滞在費は実費（20,000円程度）を別途徴収させていただきます。

ボディーワーク・セミナー

21世紀に向けて、未知の大海原をひたすら航海を続ける私達ですが、様々な変化の中、今までにかかれた海図に頼ってられない気がします。また雲行きもあやしく、これから大きな嵐に遭遇しそうな気配です。そのような今、私達はどのように方向を見定めていけばよいのでしょうか。一つの方策として、地球上に生まれてきた命としての人間というところに立ち返り、私達のもつ三つの叡知（あたま・こころ・からだ）を見直してみたいと思います。

呼吸をしていること

ゆったりしていること

感じとること

生き生きしていること

これらをじっくり味わうことから始めたいと思います。

担当者 グラバア俊子・寺西佐稚代

日 程 毎週土曜日8回午後1:00～4:00

1992年5月23日/30日

6月6日13日/27日

7月4日/11日/18日

定 員 20名

会 場 南山短期大学

研修費 20,600円（消費税を含む）

からだとことばのセミナー

人と人と向きあい、近寄り、ふれ、かかわり、そして応え、言葉を交わすこと、その基盤となる自分のからだに気づき、動き出してみようと試みてみたいと思います。

- ・ひとにふれ切れない自分に気づく
- ・自らのからだのこわばりに気づく
- ・からだをときほぐす
- ・感じるままに動く
- ・他者に働きかける
- ・ことばで働きかけ、そして応える

短い時間でどれだけのことが成り立つかわかりませんが、からだ全体が深くいきいきと動き出す感覚が、湧き出してきたらいいな、と思います。

担当者 竹内敏晴

日 程 1992年7月24日（金）～26日（日）（3日間集中）

定員 30名
会場 南山短期大学
研修費 33,990円(消費税を含む)

特定研修

ワークショップ「教え・育てる人生」

耕された田畑に作物が豊かに育つように、豊かな人生が花開く土壌としての自己をたがやすことがこのワークショップのねらいです。

わが子を育てることで人生を豊かなものにしてゆく親としての人生、子供たちを教え育むことで人生を充実したものにしてゆく教師としての人生、いずれにおいても鍵となるのは、大人であるわたしたちが自分自身のなかに、内なる「子供」をよみがえらせ生き生きと息づかせることです。

自分のなかに「幼児」や「児童」や「青年」が生き生きと息づいている親や教師は、幼児や児童や青年と自分らしくしなやかにかわり、お互いを生かしあう関係を築くことができます。

親として教師として、そして人間として生き生きと生きる人生に目を向けていただけたらと願っています。

担当者 河津雄介(聖霊短期大学・百芳教育研究所)

日程 1992年7月28日(火)～30日(木) (3日間集中)

参加資格 教育に関心の深い方

定員 20名

会場 南山短期大学

研修費 33,990円(消費税を含む)

ユング心理学

ユング心理学の分野は幅広く、その理論は難解で、解説書によって受動的に理解するにとどまりがちです。

この講座では、講義によってユング心理学について学ぶのではなく、ユング心理学の考えを軸にして、自分自身についての気づきと理解を深めることを試みようと思います。

具体的にはラボラトリー・メソッドを用い、用意された実習の中で自己表現をしたり、話し合ったりしながらすすめていきます。

今回はペルソナ、及びタイプをテーマにプログラムを考えています。

能動的に参加し、体験を通してこれまで知らなかった自分に出会っていきましょう。

担当者 木村晴子

日 程 1992年7月4日(土)・5日(日)・18日(土)・19日(日)

定 員 24名

会 場 南山短期大学

研修費 20,600円(消費税を含む)

日本ユングクラブ東海支部の協賛として行います。

ファシリテーター・トレーニング

このセミナーは、組織の中で教育にたずさわっている方や教育に関心を持っている方々がともに集い、体験学習の実習を計画実行・参加しながら、体験学習による教育の推進者(ファシリテーター)としての自己のスキル(技能)開発に取り組み、さらにセミナーでのお互いの体験をふまえて広く教育の問題を考えて行きたいと思っております。

セミナーのねらい

1. 体験学習とは何か、その現状・問題点・将来の方向などを探る。
2. 教育推進者(ファシリテーター)として、自分の教育観、姿勢、学習者とのかかわり方などを検討する。
3. 組織内教育のさまざまな展開方法を探り、体験学習によるプログラムをつくり実施するスキルを養う。
4. 参加者相互のかかわりを深める。
(相互理解、チーム作り、情報交換など)

担当者 星野欣生

日 程 毎週土曜日13回午後2:00~5:00

1992年9月26日

10月3日/17日/31日

11月7日/21日

12月5日/19日/26日

1993年1月9日/16日/23日/30日

定 員 18名

参加資格 何らかの体験学習を経験したことのある方

(不明の場合お問い合わせ下さい)

会 場 南山短期大学

研修費 47,380円(消費税を含む)

【問い合わせ先】南山短期大学人間関係研究センター(TEL. 052-832-6214)

南山短期大学人間関係研究センター規程

第1条 本学に南山短期大学人間関係研究センター（The Center for the Study of Human Relations of Nanzan Junior College）（以下「センター」という。）をおく。

第2条 センターは、キリスト教的人間観に立って広く学際的・行動科学的に人間・人間関係の研究および研修を行うことを目的とする。

第3条 前条の目的を達成するために、次の各号の事を行う。

- 1 人間・人間関係に関する研究と教育の推進
- 2 センターと目的を共通にする学外研究機関との協力
- 3 地域社会における開かれた大学としての諸機能を果たすために研究会・研修会等の開催および個別的相談・指導・援助等
- 4 研究成果の刊行および文献・資料の収集と一般への公開
- 5 その他センターの目的達成のために必要と認める事業

第4条 センターに研究員を置き、そのうち1名をセンター長とする。

- ② 研究員およびセンター長は学長が委嘱する。

第5条 センター長は、センターの事業を掌理し、センターを代表する。

第6条 センターは、必要に応じて顧問、相談員および講師をおくことができる。

第7条 センターは、その目的にそって研修しようとするものを研修生として受け入れ指導・援助を行う。

- ② 研修生についての規程は、別に定める。

第8条 センターに事務職員をおく。

- ② 事務職員は、センター長の指示をうけてセンターの事務を担当する。

付 則

本規程は、昭和52年9月30日より実施する。

南山短期大学人間関係研究センター研究員

（1992年4月～1993年3月）

センター長 伊藤 雅子

研 究 員	會澤 俊三	グラバア俊子	樋田大二郎	星野 欣生	市瀬 英昭
	河津 雄介	木村 晴子	まどか庸代	宮本 桂	水野 道子
	文珠紀久野	中堀仁四郎	中野 清	大森 正樹	R. A.メリット
	竹内 敏晴	津村 俊充	山口 真人		（A B C順）

事 務 局 牧 香里

編集後記

世間で「からだ」の問題が注目されだしてからだいぶ時がたったように思う。本紀要としては初めての特集ということになるが、それまでこの問題がスタッフの間で話題にならなかったのかといえば、全く逆で、竹内敏晴やグラバア俊子など、いわゆる「からだ」問題の専門家はいるし、体験学習方式を標榜することのうちに当然この問題が深くからんでくることは皆百も承知である。しかしいざ正面に見据えようとする、どこから手をつけていけばよいか皆目見当がつかなくなる。それは恐らくこの問題が、人間関係とか教育とか体験学習とか、そのように特定化される領域的問題群の枠をはるかに超えて、人間存在そのものの根源的なあり方や生き方をさぐる問いとしてあらわれてくるからではないだろうか。「からだ」の問題とは、すなわち、すぐれて哲学的な問いなのだと思う。

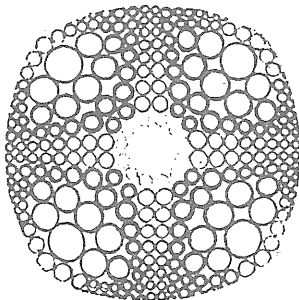
今回特集に掲載した記事と論文は、寺西の一篇をのぞけば、はなはだ宗教的・哲学的な切り口からのものに片よっているように思われるかも知れない。本紀要のこれまでの傾向からすれば、ボディワーク・セミナーやノンバーバル・コミュニケーション・エクササイズなどの実践レポートを主眼としたものを大方は予想しただろうし、そうであってこそ紀要『人間関係』の値うち(?)だと思われたとしても当然である。そうではあるとしても、宗教や哲学の切り口を抜きにして、本研究センターの活動と研究がそれ固有のものとしてありえないこともまた確かなことである。

そうした私たち自身の活動の *sine qua non* の表明としてお読みいただければ幸いです。

それにしても「からだ」と平仮名書きするとき、「体」「身体」「身」「肉体」あるいは「ボディ」と書くとき、みなそれぞれ微妙にニュアンスが異なってくるのはなぜだろうか。そんな単純なことすらいまだわからずに私たちはいるようだ。これから本紀要の特集にたびたびとり上げられるだろう問題の入口にようやくたどりついた思いがする。

いつもながら、という以上に、今回はとくに編集者の不手際のため、執筆者ならびに尾頭橋印刷の佐藤氏に多大の御迷惑をおかけしお詫びするとともに、関係者各位の心からの励ましと御協力に深くお礼申し上げます。

(中野 清 記)



目次

特別講演 コンティンジェンシヤ理論について—現状と課題... 野中郁次郎... 2
特集 「Tグループ」
JICEラボラトリー・トレーニングの変遷(その1)... 中庭仁四郎... 11
高等教育におけるTグループの実践... 星野欣生・山口真人... 36
人間関係科Tグループ実践をめぐって... 津村俊夫... 77
Tグループによる学習過程理解のための方法的研究1)
—学生の内容詞語表現による群内気質理解への多次元的アプローチ—... 津村俊夫... 90
Tグループに於ける女性
—規範と性役割に由来する問題点—... KANTER・倉澤俊三... 99
専載報告 (1977年~1983年)
I 研究会
1. 「コンティンジェンシヤ理論について」... 野中郁次郎(信州大学)・108
—現状と課題—
2. 「大学教育におけるTグループ適用の試み」... 星野欣生(南山短大)
—教育の変革を求めて—... 山口真人(南山短大)・109
3. 「これらのカウンセリングのあり方」... 小林純(上智大学)・111
4. 「わたしの歩んできた道」... 寿山 徳高(上智大学)・113
5. 「ヒューマニスティック・エデュケーション
の動向と自己成長への身体的アプローチ」... グラバア俊子(南山短大)・116
6. 「フーバーと教育—我と汝を中心にして—」... 眞行寺 功(金沢大学)・118
7. 「With-nessということ」... 星野 欣生(南山短大)・120
—教師・学生関係について—
8. 「関係の神学」... 梶村一郎(聖母学院短大)・122
9. 「教育を考えたおぼえ」... 伊東 博(横浜国立大学)・126
10. 「からだ、ことば」... 竹内敏晴(宮城教育大学)・128
II 社会人研修
1. 人間関係基礎研修講座... 132
2. 人間関係専門研修講座... 134
3. 人間関係特定研修講座... 137
4. 社会人研修参加者統計... 140
5. 1984年度社会人研修予定... 141
III 南山短期大学人間関係研究センター規程... 142
IV 南山短期大学人間関係研究センター研究員... 143

目次

特別研究会 人間関係の教育—体験学習—... 河合 雅雄... 2
特集 「人間教育における体験学習」
I. 高等教育における体験学習
1. 南山短期大学人間関係科の教育の概観... 星野 欣生... 39
—10年の歴史と展望—
2. 人間関係科における教育の試み... R.A.メリット... 47
—見直された体験学習—
3. 人間関係科による「体験学習」... 柳原 光... 64
—トレーニングから学習へ—
II. 南山短期大学人間関係科の10年
1. 教育の実践
—「年次の授業の流れ」... 83
1) キリスト教概論I, II, III... 宮本 佳... 84
2) 人間関係概論I, II... 柳原 光... 89
3) 人間関係概論III(哲學的基礎・問演習)... 倉澤 俊三... 95
4) 人間関係概論IV(心理学的基礎・問演習)... グラバア俊子... 100
5) 人間関係概論V(社会学的基礎・問演習)... 山口 真人... 106
6) 人間関係研究法(その1)... 星野 欣生... 114
7) 人間関係研究法(その2)... 星野 欣生... 117
—フィールドワーク—
—「年次の授業の流れ」... 123
8) 人間関係各論I(客観に関する領域)... 伊藤 雅子... 124
9) 人間関係各論II(組織・集団に関する領域)... 山口 真人... 132
10) 人間関係各論III(文化に関する領域)... 寿山 徳高... 136
11) 人間関係各論IV(教育に関する領域)... R.A.メリット・倉澤俊三... 141
12) 人間関係各論V(援助法に関する領域)... グラバア俊子... 145
13) 人間関係総合実習(含む)... 山口 真人... 150
14) 人間関係実践演習(卒業研究)... 星野 欣生... 156
2. 学生の学びとその軌跡
1) 定年2年級と卒業後5年間の個人の成長記録から... 倉澤 俊三... 162
2) 卒業生の進路調査から... 津村 俊夫... 179
3. 人間関係科に新しくかわる教員として
1) 教師と学生のかわり方をめぐって... 木村 晴子... 205
—心理臨床分野の教員として—
2) 「体験学習」を修学する... 中野 清... 208
—体験と知とコトバ、知の権限を求めて—
投稿 JICEラボラトリー・トレーニングの変遷(その2)... 中庭仁四郎... 217
専載報告 (1984年)
I 研究会
1. 「もう一つの主師徳—商店のおかみさんたち」... 天野 正子(千葉大学)・269
2. 人間関係科における体験学習... 教員としての進路調査から... 津村 俊夫... 271
3. 体験学習と理論学習をめぐって... 中野 清(南山短大)・273
—絆を結び—
II 社会人研修
1. 人間関係基礎研修講座... 277
2. 人間関係専門研修講座... 279
3. 人間関係特定研修講座... 281
4. コンサルテーション... 283
5. 社会人研修参加者統計... 285
6. 1985年度社会人研修予定... 286
III 南山短期大学人間関係研究センター規程... 288

目次

特別研究会 人間関係と自己表現... 竹内 敏晴... 2
特集 「自己表現」
I 自己表現ワークショップからの報告
自己表現ワークショップの概要... 山口 真人... 33
ワークショップ1「私の仮面作り」... 木村 晴子... 36
「2「自由に誇ろう、感ずるままに!」... 倉沢 俊三... 46
「3「クリエイティブ・ペインティング」... 山口 真人... 53
「4「オリエントスター」... グラバア 俊子... 60
「5「情熱とスペイン舞踏—感情と表現」... まどか 麗代... 71
「6「絵本づくり—誕生—」... 文雄紀久野... 86
II 自己表現をめぐっての考察
1. チームづくりと自己表現... 星野 欣生... 93
2. 神話体験にある自己表現... 大森 正樹... 98
3. 現代文化と自己表現... 越田大二郎... 102
ミニレクチャー
体験学習... 星野 欣生... 109
プロセスとは何か... 津村 俊夫... 116
コミュニケーション・プロセス... 山口 真人... 120
邦訳ミニレクチャー
センチメンティアル・トレーニングとは何か... Charles Seashore(津村俊夫訳)... 125
グループとその誕生から死までのサイクル... Richard C. Weber(津村俊夫訳)... 130
レポート
人間関係研究センター社会人研修
「人間関係基礎研修の理論と実際」... 津村 俊夫... 137
実用研究員から報告
「私の人間関係体験学習の中で」... 高平百合子... 150
専載報告 (1986, 1986年度)
I 研究会
1. 「今日からみた人間関係科創設の意義」... 澤田 慶輔... 153
2. 「スペインにおける生命倫理研究の現状」... まどか 麗代... 155
II 社会人研修
1. 人間関係基礎研修講座... 158
2. 人間関係専門研修講座... 159
3. 人間関係特定研修講座... 162
4. コンサルテーション... 164
5. 社会人研修参加者統計... 166
6. 1987年度人間関係研究センター事業予定... 167
南山短期大学人間関係研究センター規定... 169

目次

巻頭言... 星野 欣生
特別研究会: 「学習者を中心にすえた教育のあり方めぐって」... 河津 雄介... 2
特集「グループの中に生きる」
1. 個を生かす集団・集団を生かす個... 星野 欣生... 45
2. キリスト教における個と集団... 市瀬 英昭... 50
3. 現代科学における個と集団の問題をめぐって... まどか 麗代... 55
—原子論からバイオホロネックスの発想まで—
4. 人間関係科の教育における個と集団... 山口 真人... 69
—関係に定位した教育の実現をめざして—
5. 「個」と「集団」... 横山 彰... 77
—合流教育実践からの考察—
6. チームづくりのトレーニングと組織開発... 星野 欣生... 91
山元由美子
緒熊 京子
7. 企業内研修におけるグルーブトレーニング... 松本 寛之... 121
田辺 昂
8. 南山短大における集団不適合... 木村 晴子... 130
—学生相談室開設に向けての報告—
ミニレクチャー
援助するということ... 竹内 敏晴... 139
態度価値と責任性存在... 大森 正樹... 144
対人感受性の開発... 山口 真人... 149
—人間関係トレーニングの原理と実際—
レポート
NTLにおける最近のラボラトリー・トレーニング... 津村 俊夫... 157
専載報告 (1987年度)
I. 研究会... 171
II. 社会人研修
1. 人間関係基礎研修講座... 175
2. 人間関係専門研修講座... 178
3. 人間関係特定研修講座... 180
4. コンサルテーション... 183
5. 社会人研修参加者統計... 185
6. 1988年度人間関係研究センター事業予定... 186
南山短期大学人間関係研究センター規定... 190

目次

巻頭言 伊藤 稚子

特別研究会：「自己との対話 十年の図」..... 柳田 聖山... 1
 「水月の極意付り中盤のこと」..... 上原 輝男... 36

特集／対話

1. 対話的生 宮本 桂... 49
2. からの対話 竹内 敬晴... 57
3. Cross Cultural "Dialogue" in the Age of Commodity Culture R. A. メリット... 72
4. 典礼—神と人との対話 市瀬 英昭... 89
5. 神との対話としての祈りとアイコン 大森 正樹... 93
6. 聴くということ 木村 晴子... 97
7. 専門化社会とおせっかい 堀田大二郎...103
 —教師と生徒の対話についての一考察—
8. 科学人と宗敎人との対話 まどか庸代...115

投稿：〔訳註〕人間学..... O. マルカド（中野 清訳）...127

レポート：教師のためのセミナー 山口 真人...147

ミニレクチャー：
 アクション・リサーチ 星野 欣生...155
 人間関係の変革 山口 真人...160
 —社会的感受性と人間関係のスキル—

事業報告（1988年度）

1. 人間関係基礎研修講座168
2. 人間関係専門研修講座171
3. 人間関係特定研修講座177
4. コンサルテーション180
5. 社会人研修参加者統計182
6. 1989年度人間関係研究センター事業予定183

南山短期大学人間関係研究センター規定187

目次

巻頭言 津村 俊亮

特別研究会：「体験学習とキリスト敎教育」..... 坂口 順治... 1
 特集／Tグループ再考

1. Tグループの倫理 中堀仁四郎... 35
2. Tグループと靈性教育 まどか庸代... 49
3. Tグループに関する2つの考察 木村 晴子... 60
4. ラボラトリ—敎育におけるプログラミングについての考察 津村 俊亮... 67
 —Tグループを中心とした敎育実践に向けて—
5. トレーナーになること 星野 欣生... 79
6. 対話的敎育—M、ブーバーの敎育論をめぐって 宮本 桂... 89
7. 学生にとってのTグループの意味 文珠紀久野... 99
8. Tグループに思う
 (1) 遅い気づき R. A. メリット...136
 (2) Tグループトレーニングの場に座るとき 會津 俊三...138
 (3) Tグループで思うこと 大森 正樹...141
 (4) Tグループトレーニングの経緯と家族 伊藤 稚子...143
 (5) Tグループ実践への提案 津村 俊亮...146
 —私のTグループ体験から—
 (6) wendepunkt—私のTグループ グラバア 俊子...150
 (7) Tグループ随感 竹内 敬晴...153

レポート：Tグループの実際 浜本孝子・河原紀久子...155
 南山短期大学人間関係科でのTグループ合宿の動向 星野 欣生...173

ミニレクチャー：
 Tグループ 山口 真人...179
 TグループQ&A 星野 欣生...189
 人間関係とフィードバック 津村 俊亮...199
 効果的なコミュニケーションのための5つの要素 中堀仁四郎...203

事業報告（1989年度）

1. 社会人研修概要209
2. 人間関係基礎研修講座210
3. 人間関係専門研修講座213
4. 人間関係特定研修講座215
5. コンサルテーション217
6. 社会人研修参加者統計219
7. 1990年度人間関係研究センター事業予定220

南山短期大学人間関係研究センター規定225

目次

巻頭言 星野 欣生

特別研究会：「日本に於ける生涯学習の動向」..... 那須野隆一... 1
 特集／生涯学習の実践 —学びつてなま—

1. 生涯学習と体験学習 星野 欣生... 41
2. いま生涯学習に期待されるもの 伊藤 稚子... 55
 —生涯学習と体験学習的人間関係敎育—
3. 第二の大航海時代の生涯学習 グラバア 俊子... 81
4. 生涯の大事 竹内 敬晴... 94
5. 生涯敎育方向性 リチャード・A・メリット...100
6. 「生涯学習」随感 河津 雄介...103
7. 人間関係基礎研修の理論と実際 津村 俊亮...106
8. ボランティア活動と生涯学習 青木明子・山口真人...119
 —いのちの電話活動におけるボランティア相談員の成長—
9. セルフ・サイエンス 津村 俊亮...130
 —自己認識を深めるためのトレーニング—
10. ドストエフスキーを読む 大森 正樹...139
 —大人の読書会をやって—
11. 想起—礼拝における学び 市瀬 英昭...142
12. 体験を通して「からだどころ」の健康づくり 石田 幸崇...146
13. 「体験学習」と自己理解 寺西佐雄代...150
 —学生から教師という立場になって思ったこと—
14. 私の敎育メモ 吉川 房枝...154

ミニレクチャー：
 体験学習と学習ジャーナル —自己理解を深めるために— 津村 俊亮...159
 介入ということ —構造化された実習において— 星野 欣生...167
 ふりかえりについて —体験学習において— 星野 欣生...173

事業報告（1990年度）

1. 社会人研修概要177
2. 人間関係基礎研修講座（一般研修）178
3. 人間関係専門研修講座（継続研修）181
4. 人間関係特定研修講座183
5. コンサルテーション185
6. 社会人研修参加者統計187
7. 1991年度人間関係研究センター事業予定188

南山短期大学人間関係研究センター規程193
 あとがき —生涯学習制度化の懸念— まどか庸代...194

編集者 中野 清

人間関係 第9号

1992年3月20日 発行

編集発行者 〒466 名古屋市昭和区隼人町19番地
 電話 (052) 832-6 2 1 4・6 2 1 1
 南山短期大学人間関係研究センター
 代表者 中堀 仁四郎

印刷所 (株)尾頭橋印刷所
 名古屋市巾着区南脇町3丁目20番地
 電話 (052) 351-6 2 3 1 番(代表)